

1. 報告要旨

<プロジェクトについて>

日本は、1961年以來、使用済み燃料を再処理し、再び“有効利用”する「核燃料サイクル」計画を推進してきた。2016年12月、突如、その要ともいえる高速増殖炉「もんじゅ」が廃炉になったにも関わらず、計画を見直していない。そして、この「核燃料サイクル」を成立させるのに必要不可欠な六ヶ所村再処理工場を稼働させようとしており、長年審議されている六ヶ所村再処理工場の新規規制基準審査の行方が注目されている。事実上、六ヶ所村再処理工場が稼働していない今だからこそ、人々の闘いの記録を収めたいという思いから、2019年4月より立ち上げた映画制作プロジェクトである。

<設定目標とその達成状況について>

作品を通じて、立地地域や翻弄されてきた人々の歴史、苦悩に触れてもらうという第一義的な目標には、作品ができていないため到達していない。しかしながら、クラウドファンディングの実施を通じ、本プロジェクトを知ってもらう過程で、普段こうした問題に触れない人達や今まで出会ったことのない人達に対しても話題にできたという点において、多少は踏み出せたと思う。また、クラウドファンディングの支援者（パトロン）限定ではあるが、取材のレポートや取材記などを配信し、単に「核燃料サイクル」の問題点を提示するだけでなく、歴史を築いてきた人達との出会いやその方々の闘いのエピソードや取組などを紹介し、少しではあるが、現地の方々の考えや取組に触れてもらえたと思う。

<企画実施の進捗と実施による学びについて>

2019年10月中旬まではクラウドファンディングに翻弄し、文献調査に取りかかれたのはそれ以降になったこと、実質的な取材、インタビューは2020年2月ようやく動き出した矢先、COVID-19の影響で2月中旬以降、取材を中断し、資料へのアプローチ範囲も制限されたため、当初想定していたスケジュール通りに動けていない。

今年度は青森に4回、福井に1回、佐賀に2回伺った。基本的に、むつ小川原開発の頃やそれぞれの原子力発電所の誘致の時代を知っていたり、闘ってきた方々から、現在活動をしている方々まで、青森では6名、佐賀で6名ほどお話を伺った。

何より、「核燃料サイクル」に取り組む方々と面識がなかったため、お会いできる機会に挨拶をさせていただくなどの面識を重ねることに重点が置きながら、取材の仕方を模索するので一杯だった、ということが正直なところである。こうした状況ではあったが、できる限り多くの方に会いお話をさせていただくことで、「核燃料サイクル」という問題をどういう角度をもって捉えるかについて考察できた点、そして、本プロジェクトの始めの一步を踏み出した点において、対外的な成果物が少ないものの、収穫を得られたと考えている。

こうした経験を糧に、今後は制作に向けて取材を充実させたい。特に、単に「核燃料サイクル」の問題点というよりも、今に至る経緯や歴史を紐解く作業をしながら、視座を徐々に明確にしていきたいと考えている。また、資金集め（自助努力）や体制面での計画性の欠如を補えるよう、相談を仰ぎながら進めたい。

2. 成果物

1. 「[核燃料サイクル問い映画 フリーライター稲垣さん制作へ](#)」『佐賀新聞』（リンクは有料読者限定）（2019/8/17）
1. レポート「避難訓練@馬渡島」（2019/12/12）
2. 取材記～青森編～（2020/3/12）